

## 痛みとプラセンタ

松岡医院 院長

**松岡 修平** (まつおか しゅうへい)

座長：上馬場 和夫(ハリウッド大学院大学・教授)

原 靖(原クリニック・院長)

●

略歴：

1976年生まれ

2002年東京医科大学卒業

2002年東京医科大学麻酔科学教室入局

2014年松岡医院 勤務

資格：

日本麻酔科学会 専門医・指導医

日本東洋医学会 専門医



ヒトプラセンタ (HPE: Human placenta extract) 製剤であるメルスモン、ラエンネックの両エキス製剤は更年期障害、肝機能障害に保険適応が認められた薬品であることはご存じのとおりですがいずれも治療の第一選択ではないというのが現状です。

メルスモンは1959年、ラエンネックは1974年に保険収載されて50年以上経過した2020年現在でも使用されているのは、治癒が難しいとされる症状を抱える患者にとって代替の効かない存在であるからと私は考えております。

痛みの治療にHPE製剤が有効であることはすでに明らかではありますが、基礎研究では $\kappa$ オピオイド受容体を介する作用、マクロファージを介した抗炎症作用、抗酸化ストレス効果などいくつか報告がなされています。今回HPE投与によって難治性痛が改善した症例と反対に効果が乏しかった症例を、考察を交えながら紹介させていただきます。